
私の一番大好きな人

ユーリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の一番好きな人

【Nコード】

N5928A

【作者名】

ユーリ

【あらすじ】

志保は、新一がなかなかプロポーズしてくれない事を悩んでいた。そしてある日の夜、2人の関係を進展させる事件が・・・

私の名前は宮野志保。現在、帝丹大学の大学院生。

私は今、つき合っている人がいる。

工藤新一君っていう、無鉄砲な男の子。

彼は私の命の恩人で、私も彼の命の恩人。

そんな縁で、私達はずいぶん彼氏彼女の関係になった。

でも、私は今、困っている。

新一君が、なかなか私にプロポーズしてくれないのだ。

新一君は刑事の仕事と学業の両立で、なかなか家に帰って来ないし、私は私で講義が山ほど詰まっていて、なかなか2人きりになるチャンスがない。

私は、早く新一君と結婚したいとつねづね思っていた。

志保

「ふああ……後の講義は何が入っていたかしら……」

そんな事を言いながら、私はロビーの掲示板に目を通す。

志保

「あら？今日、薬学概説、休講だわ・・・」

私は、少しマシになったと思い、新一君にメールを打った。

『新一君、今日は薬学概説が休講だったから、今から家に帰るね。
志保』

私はメールを送信すると、パチンと携帯を閉じた。

志保

「さ、帰ろ！」

私が工藤邸に着いた時、新一君からメールが来た。

『志保、今日はオマエに渡したい物があってそれを買に行くから、先に寝といてくれ。新一』

志保

「はーい！ルンルン」

私は、少し上機嫌になった。

風呂にも入り終え、眠くなった私は、2階に上がっていった。

志保

「ふああ・・・眠いわ・・・」

私は、そのままベッドに突っ伏し、眠りに落ちた。

それから数時間後、工藤邸に怪しい人影が現れた。
空き巣である。

男は工藤邸に近づくと、呼び鈴を鳴らした。

ピンポン、ピンポン。

しかし、志保は未だに起きない。

男はニヤリとし、覆面をかぶって、工藤邸に忍び込んだ。

男は、懐中電灯で辺りを照らしながら進んでいた。

やがて、2階から志保の眠り声が聞こえてきた。

男はそれを聞くと、またニヤリとし、2階へと上がっていった。

男が新一と志保の寝室に入ると、志保はまだスヤスヤと寝ていた。

男はニヤリとし、ベッドに近づくと、志保の口を塞いだ。

ガバッ！

志保

「んっ！？」

「おとなしくしろ！！」

志保は、なす術もなく空き巣に捕まってしまった。

数分後、志保から金のありかを聞き出した男は、物色を始めていた。

志保はヒモで両手両足をグルグル巻きに縛られ、口にガムテープを貼られ口を塞がれて、壁にもたれさせられている。

志保

「うっん！うっん！！」

志保は、ジタバタともがいていた。

志保

「うっん！！」

男は、せっせと札束を数えている。

「へへへ、やっぱり工藤優作の家だ・・・金がたんまりありやが
ぜ・・・」

その男を、志保はふるえながら見つめていた。

志保

「（どうしよう・・・このままじゃ私・・・殺されるかも・・・）」

覆面をしているため、男の顔は見えていない志保だが、彼女の不安は
なくならなかった。

「・・・さてと、そろそろズラかるとするかな・・・」

男はそう言うと、志保の方を向いた。

志保

「!?!」

男は、ゆっくりと志保に近づいていく。

志保

「んっ!んんっ!?!」

志保は、ジタバタともがいた。

「さて、どうしたものかねえ・・・」

男は、ふるえている志保をジッと見つめた。

「この娘、けっこう上玉だよなあ・・・」

そう言うと、男は志保のど元に手をかけ、持ち上げた。

グイッ。

志保

「んんっ!!」

男は、ニヤリと笑みを浮かべる。

「こんな上玉、この家の主のモンだけにしとくのはもったいねえな・
・・・」

志保

「んんっ!!」

「へへへ・・・ちょっとかわいがってやるか・・・」

男はそう言うと、志保の服に手をかけた。

志保

「んっ、んんっ、んんっ!! (な、何するのよぉ!!) (」

志保はジタバタともがいたが、男はなおもニヤニヤしている。

「へへへ、いい体してるぜ、お嬢ちゃん・・・」

男は、志保の服を脱がせようとする。

志保

「（くっ・・・口を塞がれてなかったら、かみついてやるのに・・・！！）」

志保は、歯ぎしりしていた。

「さて、この邪魔な物をはがすか・・・」

男は、志保のブラジャーを外そうとする。

志保

「くっ・・・（助けて、新一君！！）」

志保が目を閉じたその時、扉がガチャリと開いた。

「な、何！？」

志保

「（え？）」

男と志保が振り向くと、そこには新一が立っていた。

新一

「困るなあ・・・人の家に勝手に入っちゃ・・・」

「だ、誰だオマエは！！」

新一

「工藤新一・・・探偵さ・・・」

新一君は私に駆け寄り、口のガムテープをはがしてくれた。

ピリリ・・・

志保

「イタタ・・・ケホケホ・・・」

新一君はそれから、手足のヒモをほどきにかかる。

数秒後、私は拘束状態から解放された。

新一

「志保、大丈夫か？」

志保

「新一君！ありがと・・・！！」

私は新一君に抱きついた。

新一

「ゴメンな・・・オレが早く買って帰って来ないばかりに、オマエを怖い目にあわせてしまつて・・・」

志保

「うつん、大丈夫・・・ちゃんとあなたが助けに来てくれたもの・・・それより、買って来た物つて・・・？」

新一

「これ・・・」

新一君は、私に何かの箱を渡した。

私は、箱を開けた。

志保

「これは・・・」

中には、キレイな指輪が入っていた。

新一

「これ、婚約指輪だよ。」

志保

「婚約指輪・・・」

新一

「志保、オレと結婚してくれないか？」

私は、目が涙でいっぱいになった。

志保

「は、はい・・・喜んで・・・」

私と新一君は抱き合い、キスを交わした。

それから1ヶ月後、私と新一君は結婚式を上げた。

式には多くの人が詰めかけ、『事件を乗り越えて結ばれたカップル』としてテレビでも話題になった。

その後、私と新一君に2人の子供ができた・・・

7年後・・・イギリス・ロンドン

「ねえ、お母さん・・・お母さんは、今幸せ？」

志保

「ええ、幸せよ、哀子。」

哀子

「お父さんは？」

新一

「もちろん、幸せだよ、哀子・・・」

「哀子ー！向こうでサッカーしようぜー！」

哀子

「あ、今行くよ、一保！」

私と新一君との間に生まれた双子の兄妹・・・工藤一保と工藤哀子。
2人は今年、ロンドンブリッジジュニアスクールに入学する事にな
っている。

志保

「子供って、本当にカワイいわよね・・・」

新一

「ああ、オマエには負けるけどな・・・」

志保

「んもう、新一君ったら！」

一保と哀子に、これから先どんな困難が待っているかはわからない。

でも、この2人なら、どんな困難も乗り越えていけるだろう。

何てったって、私と新一君の子供なのだから・・・

一保と哀子の未来に、幸あれ。

おしまい

（後書き）

どうだったでしょうか？連載作品の続きを考えている時に作った物なので、背景描写がしつかりできてませんが・・・精一杯がんばったつもりです。

最後に出てきた2人の子供、まず哀子は、ひっくり返すと『コ哀』になります。また、一保は、新一と志保の名前をくつつけたものです。

原作では哀は幸せになれないそうなので、せめてこの世界では幸せにしてあげようと思って書きました。

感想も送ってくだされば、幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5928a/>

私の一番好きな人

2010年10月21日22時18分発行